相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相双COCOROニュースなごみ

第１０号　H26 年７月１８日　隔月発行
発行元　相馬広域こころのケアセンターなごみ　編集部
ホームページ　http://nagomi.soso-cocoro.jp
Facebook ページ　http://on.fb.me/SQ56Ju

（写真　開設セレモニー　くす玉割りの様子）

平成 26 年４月１日より、当法人の新たな事業所「訪問看護ステーションなごみ」が開設しました。新地・相馬・南相馬エリアを対象に、精神疾患の方へ訪問支援を行っていきます。
「あなたのままであなたらしく」をモットーに、地域で生き生きと生活を送ることができるよう、訪問看護スタッフがサポートしていきたいと思いますので、ご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

また、６月 15 日（日）には、開設を記念してセレモニーを行いました。当日は約 70 名の方にお集まりいただき、皆様と一緒に開設をお祝いすることができたことを、スタッフ一同嬉しく思いますと同時に、心より感謝申し上げます。
セレモニーでは、当法人の設立より多大なるご支援いただいております、高知県立大学大学院看護学研究科の中山洋子先生にご講演をいただきました。「ケアの日常性―求められる訪問看護―」というテーマで、先生のご経験や、地域で援助支援を行うにあたって必要なケアの在り方について、大変有意義なお話をいただきました。

事業が増え、より幅広い支援を行っていけるよう、スタッフ一同これらも努力を重ねていきたいと思います。これからも、当法人の活動にご支援、ご指導のほどよろしくお願い致します。

（写真　中山　洋子先生　講演会の様子）

～訪問看護ステーションなごみ　所長あいさつ～

ステーションを代表いたしまして、一言ごあいさつ申し上げます。
震災後、一度は精神科医療が失われたこの地に精神科に特化した訪問看護ステーションを開設し、スタートの第１歩を踏み出すことができますのは大変光栄に存じます。日ごろ皆様方のご支援を賜り、おかげさまで、ここ相双地域に新しく開設することができましたことは、私達も大変嬉しく思います。
また、開設にあたり、関係機関の皆様のご指導・ご支援をいただき、今日に至ることができました。この場を借りて、御礼申し上げます。

精神疾患は、５大疾患の中に組み込まれ、癌や脳卒中、糖尿病、心臓病などと並び一般的な疾患となってきた昨今です。
この地域でも同様に、当法人で開始したアウトリーチ事業の依頼は、精神疾患と言われるものから引きこもり、内科疾患の合併など多種多様の訪問ニーズがありました。訪問看護としてもできる限り、アウトリーチ担当当初のように病状を観察しながら、生活支援を中心にご本人のニーズに合わせた支援ができるようにこころがけています。
６月現在、訪問看護登録者は、アウトリーチサービスから移行した方が７名、心のケアセンター事業からの訪問ケースが７名、その他紹介の方が７名の合計２１名となりました。いずれも利用して下さる方は、統合失調症やアルコール依存症、認知症、うつ病、双極性障害などの疾患と共に生活されている方々です。

震災直後より支援に来ていただいている中澤　正夫先生は、「生活支援をする場合、その人をどう理解するか、どこに“寄り添って欲しいと思っているのか”をわかること、そして“寄り添う・共感する・横に並ぶ”ということが対象者をわかるということである」と著書の中で述べています。我々なごみでも家族支援を含め、相馬の風土に合った訪問看護ができるようにこころがけていきたいと考えております。当ステーションとしても「あなたのままであなたらしく」をモットーとして、精神疾患を抱えた方が、地域でその人らしく「生き生き」と生活できるように寄り添っていきたいと考えています。

今後、地域に根差した訪問看護ステーションとなりますようにスタッフ一同、皆様のご指導のもと最大の努力をいたす所存でございますので、何卒お力添えをよろしくお願いいたします。

訪問看護ステーションなごみ
所長　佐藤　照美

（写真　訪問看護スタッフ集合写真）

これからのなごみ

相馬広域こころのケアセンターなごみ　センター長　米倉　一磨

私が、当センターのセンター長に着任し早いもので 2 年半が過ぎました。この間、不慣れな管理職の自分は、この未曾有の大災害に立ち向かう組織をどのように運営したらよいか考え続けた日々であったと感じております。なごみが、既存のケアセンターと違う点は、今までにない急遽編成された他職種チームであり、かつ支援者が被災者という避けられない現実がある点です。

今思いだしますと、立ち上げ当初は、組織のルールや方向性が定まらず、前職の経験から形成された価値観のせめぎ合いがあったように思います。その結果、チームワークはおろかミィーティング自体もうまくいかなかった時もありました。次に、様々な外部からの支援が入り被災者と向き合うスキルが身につくようになりますと、今度は、「自分の職種としての自己発揮はどこでできるのか」といった疑問やスタッフ同士のぶつかり合いが出てきました。

今の段階は、このような疑問を乗り越え、一人の生活者として地元の住民として、普通の生活を取り戻すために向き合っているように思います。

支援者にとってこのような悩みは今後も続くとは思いますが、一人ひとりの個性を生かし自己発揮できる組織を目指していきたいと考えております。

（写真　立ち上げ当初、事務所のテーブルに置かれていた看板）

相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会　会員大募集！

本会の趣旨に賛同し入会していただく正会員・賛助会員を募集致します。

1．正 会 員　　年会費　一口 10,000 円
2．賛助会員　年会費　　一口 3,000 円

申し込み方法

① 正会員または賛助会員・氏名・住所・所属先・職業・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記住所に申込書を郵送または FAX してください。

お振込み先　東邦銀行　相馬支店　普通預金
口座番号：1044879
口座名義：特定非営利活動法人
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
理事長　大川貴子

郵便振込の場合
口座番号：02260-0-126825
口座名義：特非　相双に新しい精神科医療保健福祉をつくる会
（東邦銀行口座と名義が異なりますので、ご注意下さい）

② 以下のホームページアドレスから申し込むこともできます。
http://soso-cocoro.jp/（Paypal 決済も可能です）

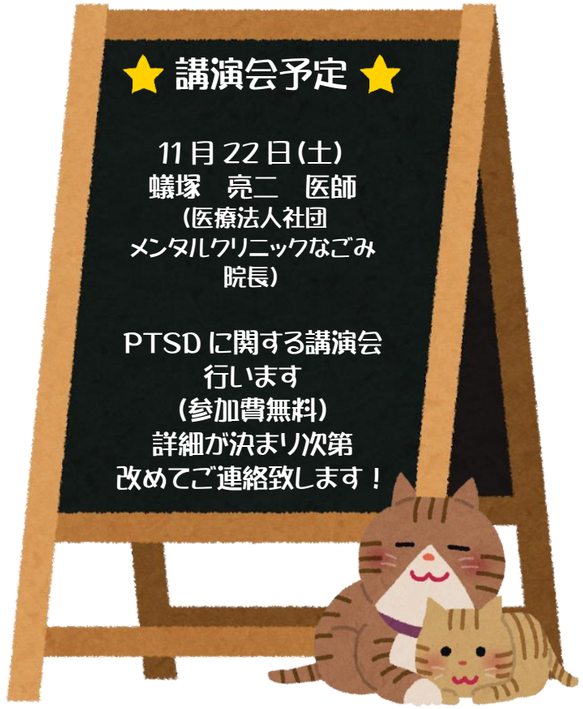
※会員になってくださった方には、定期的に会報や現地の情報を送らせていただきます。是非ご検討下さい。

お問い合わせ

〒976-0016
福島県相馬市沖ノ内 1 丁目 2-8
電話　0244-26-9753
FAX　0244-26-9739
担当　佐藤菜摘
アドレス　nagomi@soso-cocoro.jp

ロゴマークが新しくなりました！

「相馬広域こころのケアセンターなごみ」
「訪問看護ステーションなごみ」
２つの事業所名を入れた
新しいロゴになりました！



南相馬事務所での活動が始まりました！

平成２６年４月より、相馬広域こころのケアセンター南相馬事務所での活動が始まりました。鹿島区にあった事務所を原町区に移転させ、南相馬市エリア中心の活動を行っています。

南相馬市は、小高区・原町区・鹿島区があり、原発から 20 キロ圏内、30 キロ圏内、30 キロ圏外と、原子力発電所事故の影響も様々です。津波被害を受けた方や、双葉郡から避難されて暮らしている方もいらっしゃいます。復興住宅の建設も始まりましたが、完成の見通しは立たず、仮設住宅にはまだ多くの方が暮らしています。さらに県外への避難から帰ってきた人もいます。震災後の経過は様々であり、また超高齢化と労働人口の減少は、様々な世代のメンタルヘルスに影響を及ぼしています。

この環境下での活動には、中長期支援として私たちに求められていることの重さを、ひしひしと感じております。どうか引き続き皆様の温かい見守りを、お願いします。

（写真
なごみCLUBのメンバーから、南相馬事務所へ手作りの看板が送られた様子）

編集後記

昨年度より準備を進めておりました「訪問看護ステーションなごみ」ですが、四月より無事開設することができました。所長挨拶にもありましたが、相馬の風土に合ったステーションとなるように、努力していきたいと思います。

新しい事業も始まり忙しい日々となっていくかと思いますが、これからもスタッフ一同、夏バテに負けず、健康に支援活動を行っていきたいと思います！

編集員　菜摘